

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 31

ASEAN グローバルプログラム に参加して

藤澤梨花
Rika FUJISAWA
物質化学科 2年

1. はじめに

2019年8月27日から9月5日にかけて、ベトナムのハノイ、シンガポールにて10日間のASEANグローバルプログラムに参加した。このプログラムの具体的な日程を表に示す。

表 プログラム日程

8月27日	ベトナム入国 オリエンテーション
8月28日	IT企業訪問
8月29日	PBL活動
8月30日	PBL活動
8月31日	観光、自由時間
9月1日	シンガポール入国 WASABI講演会
9月2日	南洋理工大学講義・研究室見学
9月3日	Google社での講演会 ビジネスパーソンとの交流会 加藤氏の講演会
9月4日	自由時間
9月5日	帰国

2. 参加目的

私が今回このプログラムに参加した目的は、英語力を向上させたいと思ったからである。私は英語を読み書きすることはできたが、英語を聞き取ったり、話したりすることが苦手で、海外へ行って自分の英語力を知り、現地の人と生の英語でコミュニケーションをとる経験がしたいと思ったからである。

3. ハノイ工業大学生とのPBL活動

表に示した様々なプログラムのうち、私は特にハ

ノイ工業大学生との英語のみで行なったPBL活動について報告する。このプログラムは、ハノイ工業大学の学生2人と龍谷大学の学生5人の計7人のチームで「若者をターゲットに栄光堂がベトナムで発売している塩レモンキャンディーを大ヒットさせる」ことを目標に、各々が意見を出し合い、他の学生にアンケート調査して確かめるPBL活動を行った。1日目は仮説の構成とアンケートの内容を決めて、校内の学生100人にアンケート取り、アンケート結果から仮定を検証した。日本での事前学習で日本人の学生が考えた仮説と現地の学生の実態が大きく違い、ベトナム人の学生と話し合い仮説を立て直した。その後、新しい仮説についてアンケートを作り直し、ハノイ工業大学の学生が多くいる場所でアンケート調査を行った。1日目のPBL活動が終わった後では、アンケート結果を踏まえて日本人の学生だけで話し合ったりもした。2日目は再度、校内の学生にアンケート調査を行い、プレゼン資料をまとめ、大学にて英語でプレゼンテーションを行った。1日目のPBL活動が終わった時点で、日本人の学生同士だけではなくベトナム人の学生同士でも案を考えてくれていて、2日目のPBL活動をスムーズに進めることができ、チームで協力し合えた。

PBL活動の中では言語の壁にとっても苦労した。1日目でアンケート結果を集計した時にチームで立てた仮説が逆転する結果になり、2日目のプレゼンテーションに向けて再度、仮説の案を出し、アンケートの内容を修正するときに、日本人の学生同士では自分の意見を出し合えても、それをどう英語でベトナム人の学生に伝えたら良いのかわからず戸惑ってしまった。ベトナム人の学生がとても流暢に英語を話すのに対して、日本人の学生がベトナム人の学生の英語力に圧倒され、自分の意見を細かいところまで伝えられるまでの英語力が不十分で苦労したが、ジェスチャーを使ったり、単語だけ話したり、必死で自積極的にコミュニケーションをとろうとする心掛けを行なった。これにより、実感できるほど英語力の成長を感じた。



写真 ベトナム人の学生との大学内での交流風景

また、ベトナム人の学生と校内の学食でベトナム料理を食べたり、校内を少し案内してくれたり、ベトナムの文化や伝統行事、ベトナムの若者の中で流行しているものなどを話してくれて、私達日本人の学生も日本のことをたくさん話して、お互いに異文化の交流することができた。PBL 活動を通して、1つの目標に向かってチームで協力し合い、達成することの楽しさを感じ、他国の文化に触れると共に、自国の良さにも改めて気づくこともできた。ベトナム人の学生との交流で、これからもっと英語力を高めていかなければならないと痛感した。何事にも積極性がある、英語を楽しんで学習しているベトナム人の学生を見て、自分も積極性をもって何事にも取り組んでいかななくてはならないな、という気持ちになり、良い刺激をたくさん受けた。

4. 他のプログラムについてとまとめ

今回のプログラムを通して普段の生活では体験できない貴重な経験ができ、多くのことを学んだ。ハノイ工業大学の学生や南洋理工大学の学生をみて、英語力や意欲的な姿勢に影響を受け、自分の未熟さに気づき、もっと自分も頑張らなくては、という気

持ちになった。

上では述べなかったが、ベトナムでの企業訪問では若くて優秀なエンジニアの方々の話を聞けたが、化学専攻の私にとって IT といった情報関連の話は新鮮で興味深く、自分も海外でたくさんの経験をしてグローバルな視点を持ちたいと思った。ビジネスパーソンの方々との交流では日本とシンガポールでの生活や働き方の違いを聞いて、個別にアドバイスも頂け、学生生活の間に自分がすべきことを明確にできた。加藤氏の講演では、日本やアジアのビジネスの話聞いて、海外での就職に興味を持ち、加藤氏のようにいつまでも向上心を持つ続ける人でありたいと強く思った。

この10日間のプログラムで自分自身大きく変わることができた。私はあまり積極性が無く、受け身で、大勢の前で話す緊張で頭が真っ白になり、人一倍人前に出ることが苦手だったが、ベトナム人の学生と PBL 活動していく上で仲を深めていくうちに、もっとたくさん交流したいという気持ちが芽生え、自分から積極的に英語で話しかけることができるようになり、日を追うごとに班活動で自発的に意見を多く言うことができるようになった。

今回のプログラムで企業訪問の際での学年代表の挨拶や PBL 活動でのプレゼンテーションやインタビューなどの機会も得る事ができ、人前で自分の意志をしっかり話せたことが自信に繋がった。今回のプログラムで自分の人生観が大きく変わり、視野が広がり、今後自分はどのようにしていくべきかという課題も見え、自分の人生の中でとても意味があるものになった。このような貴重な機会を与えてくださった ASEAN グローバルプログラムの関係者の皆様に感謝します。